

福島薬剤師会 平成30年度第3回認知症研修会 レポート

日時：平成31年2月27日 19:00~20:45

場所：福島市保健福祉センター 5階 大会議室

研修委員 堀切茂正

1. e-お薬さんの紹介 エーザイ株式会社 森山隆

患者宅における服薬支援機

詳細はホームページを参照

<https://e-okusurisan.com/>

2. 地域包括支援センターの業務について

福島市清水西地域包括支援センター 佐藤朋裕

社会福祉士

- ・総合相談
- ・権利を守る支援（権利擁護）

保健師

- ・健康づくりのお手伝い（介護予防教室）

主任介護支援専門員

- ・包括的・継続的ケアマネジメント支援

認知症地域支援推進委員

- ・認知症に関する相談・支援（福島市認知症施策）

地域支え合い推進員

- ・地域の高齢者の支え合い体制の構築

3. 地域包括支援センターへの意見・質問の回答について

福島市中央地域包括支援センター 植村理史

Q1. 包括スタッフ間でも対応は違う？

A1. 職種によって専門分野が違います。「多職種連携」が求められるケースも増えて
います。

Q2. どこまでの相談をして良いのか？

A2. 何に対して困っているのか、そのことに対してどのようにしたいのかを話して頂
く
ことで対応の仕方も変わってくるかと思われま

Q3. 独居・同居・近隣に家族がいるけど関係が薄い。それぞれで対応も違うしどのよ
う

にすればよいか。

A3. 過去の相談歴や自宅訪問などで情報収集を行い、直接現状を見た上で適切な対応に

努めています。

Q4. 本人のみが来局し、様子がおかしいとのことで包括に関与してもらったが家族から

薬局にクレームが来た。家族としては関与して欲しくなかったとのこと。

A4. 情報を得る中で本人だけでなく、家族にも問題があったりする場合もあり、家族へ

の対応も必要な場合もあります。

Q5. 一度連絡して動いてもらったが、包括から「一度様子を見ましょう」となった。薬

剤師側としては状況が悪化しているように見えるが、包括に連絡しにくい。

A5. 複合的な問題を抱えていたりする方であれば、各関係機関が集まり「ケア会議」を

開催する場合があります。その中で解決するための対応の仕方や役割を決めて適宜動いていく場合もあります。

一緒に情報を共有していくことが大切だと感じています。連携をとりながら認知症などの早期発見ができるようにしていきましょう。（早期ならやれることは多い）

4. 薬局について きりん調剤薬局 矢吹純 業務内容

- ・処方せんを受けての調剤と投薬
- ・薬歴の管理
- ・お薬・健康についての相談
- ・薬の残薬確認。（飲み忘れ）
- ・OTC の販売

5. スモールグループディスカッション「薬局で認知症かな？と気が付いたら」 司会 株式会社エーザイ 馬瀬八尋

活発なグループディスカッションが行われました。「もっと気軽に電話欲しい」と包括の方から話があり、「ちょっと気になった患者が来局したら電話してみよう」という気持ちになったことは、非常に有意義な時間であり、共に垣根が低くなった研修会であったと思う。

以上







